

令和4年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造性に富み、心豊かな、たくましい人間の育成を図る。 ・地域に根ざし、地域に愛される「地域の高校」を目指し、学力の向上と調和のとれた人格の形成を図る。 <ol style="list-style-type: none"> 1 学力の向上と希望進路の実現 2 学習と部活動の高いレベルでの両立 3 「探究活動と研究の桂」の推進 4 生徒の自主活動の推進 5 地域連携や地域貢献のさらなる充実 	<p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近隣の小中学校をはじめ、大学や民間機関等との連携において効果的な学習成果と地域貢献を果たすことができた。 2 専門学科では、TAFSの研究活動を軸に各種コンテストにおいて高い評価を受けた。普通科では研究コースにおけるKRPを軸とし、探究活動を確立・推進することができた。 3 本校の特色や教育活動が、地元や中学生等に一定の理解が進み、選ばれる学校の一つとして認識されている。 <p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「自主・自律」の校風のもと、自ら学び、自ら考え、主体的に活動できる生徒の育成 2 専門学科の将来を見据えた教育改革と普通科のコース改編による教育効果の向上 3 学習指導要領の改訂を踏まえた「授業改善」「3観点別評価に向けた定期考査等の改善」「評価システムの見直し、構築」 4 学校のICT化と一人一台端末の利活用の推進 	<p>1 特色ある学校づくりの推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 専門学科の将来構想の方向性の検討と明確化及び普通科新コースに係る1年生の正しい理解と中学生と保護者への周知 (2) 専門学科のTAFS、普通科のKRPを軸とした研究や探究活動研究活動の推進 (3) 地域連携や地域貢献のさらなる充実と発展 <p>2 学習、進路指導</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会と自己を結びつけた主体的進路選択とその実現を図る指導の充実 (2) 新学習指導要領を着実に実施し、生徒の主体的な学習を促すとともに、知識・技術のみならず、思考力・判断力・表現力や、協働しての課題解決力を高め、探究活動を取り入れた授業の実践 (3) ICTを活用した授業とウェブ、一人一台端末を活用した学習指導の充実 (4) 文武両道の実現を念頭に置いた効果的な指導方法の研究及び環境の整備 <p>3 生徒指導</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 自主自律の精神のもと、基本的な生活習慣や規律ある学校生活の確立 (2) 生活態度や挨拶等の指導による、生徒の社会性を高める指導の推進 (3) 自己肯定感を高め、自主的・主体的活動や社会的視野を広める取組の推進と、生徒の「桂プライド」の醸成 <p>4 人権教育及び教育相談及び特別支援教育</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の人権意識の向上を図る指導の実施及び人権問題の解決に向けた資質・能力の育成 (2) いじめを未然に防止し、組織的に対応できる体制の確立 (3) 障害のある生徒への理解の促進と、合理的配慮に基づく対応の充実

令和4年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価		成果と課題
組織・運営	◇各種会議の組織体制を整備し、各分掌の機能を活性化する。	◆各分掌部長は学校運営にあたって、校長の経営方針をよく理解し、本校の教育活動全般の活性化に向けて分掌を組織的に導き、一人ひとりの教職員が学校運営を担う意識をもち、教育活動にあたる。	1	B	B	・分掌は経営方針に則り、部長を中心に運営ができた。すべての教職員が今日的教育課題について改革意識を持ち、より組織的な運営を進める必要がある。 ・WEB 配信を活用して、在校生及び保護者に積極的な情報発信を行った。その一方で、行事では今年度も感染課題防止のため、保護者の来校に一定の制限を設けざるを得なかった。 ・普通科1年生のクラス編制では、一定の教育的効果が見られた。コースに分かれる来年度は、その特色を十分に活かした教育活動の実践が求められている。 ・学習指導要領の実施においては、教科主任会議を中心に組織的に進められた。来年度以降も研究と検証を継続して行く。 ・2年生全体で実施した2月の探究・研究発表会では1年生の参加も含め、大きな成果があった。各教科における研究・探究の一層の推進と充実が課題である。 ・ICT の利活用では、年度当初に端末操作及びソフトの活用に関する研修を行い、一人一台端末導入の初年度として多くの授業で進めることができた。しかし、授業によっては改善の余地があり、全体研修以外に各教科や個々の研修機会を増やす必要がある。
	◇地域の信頼を高める学校づくりを行う。	◆専門学科、部活動、学習活動等の教育活動を、地域及び在校生保護者へ積極的な情報発信を行い、本校への理解をさらに深める。	2	B	B	
	◇専門学科、普通科の特色化を進める。	◆専門学科、普通科新コースの教育内容の検証・研究を組織的に進めていく。	3	B	B	
	◇新学習指導要領の着実な実施を組織的に遂行する。	◆教科主任会議をはじめ、各種会議等を組織的に連動させることにより、新学習指導要領に基づく指導を着実に実践する。	4	B	B	
		◆T A F S と総合的な探究の時間の実績をもとに、教科における探究活動等を推進する。	5	B		
	◇ICT の効果的な活用の推進	◆「情報教育推進会議」の構成を再編成し ICT や一人一台端末の利活用の推進と、校内システムの改善を進める。	6	B	B	
学習指導	◇「よりよい授業」構築のため、教科指導力を向上させ、生徒の学力充実に繋げる。	◆公開・研究授業週間を年2回実施し、授業アンケートの結果等も踏まえて、教員全員が授業力の向上のため研鑽する。 ◆授業規律の確立について、全教職員が共通の意識を持ち一致した指導を行うことによって、生徒が集団として学習意欲を持って授業に取り組める基礎を作る。 ◆新しい学習指導要領における観点別評価の実施に向けて研究を進める。	7	B	・授業アンケートを実施し、授業改善に向けての機会とした。また、公開・研究授業週間は2回実施し、各教科で授業改善に向け情報共有ができた。 ・授業規律の確立については、年度当初に全教職員で内容を確認し指導をすることができた。 ・3観点での観点別評価については、昨年度より教科主任会議を中心に検討を重ねた結果、実施初年度であったが円滑に進めることができた。今後も3観点での観点別評価の実施方法や在り方について、反省を踏まえながら研究を進めていく必要がある。	
			8	B		B
			9	B		
	◇希望進路の実現につながるよう学力を向上させる。	◆各分掌や各教科において生徒の学力の向上と希望進路の実現に向けて創意工夫を重ねるとともに情報を共有し組織的に取り組む。教科主任会議のさらなる活性を図る。 ◆生徒がコース選択・科目選択を適切に行えるよう、担任	10	B	B	

		及び関係分掌と連携を取り合い生徒と保護者に対してわかりやすく的確な説明をする。	11	B				・科目選択については、昨年度と同様、各学年と連携をとり合い、混乱なく実施することができた。
◇教科に対する興味と学習意欲を高め、学力を向上させる。	◆教科に対する興味と学習意欲が高められるような授業展開（ICTを活用した授業、主体的・対話的で深い学びとなる授業）を学校全体で研究・実践・情報共有し、各教員が新学習指導要領にそった授業展開となるように工夫をすることで、生徒の学力と満足感の一層の向上を図る。	◆学習強化週間（年間計10週間）を定期考査毎に実施し、自学自習・自主自律を基本とした学習習慣を身につけさせる。	12	B	B			・昨年度から引き続き、すべての教科でICTを活用した授業展開の研究・実践をすることができた。その一方で、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善や生徒の個別最適な学びに向けたICT活用の研究を学校全体で一層進めていく必要がある。
			13	B				・学習強化週間に啓発文書をWEB配信及びHR掲示することで自学自習・自主自律の習慣づけへと導いた。今後も日常を通じた啓発が必要である。
			14	B				・各学年と連携し必要に応じて進路行事を実施することができた。今後も学年と連携して継続して行くことが必要である。
生徒指導	◇生徒指導の現状と課題について、教職員の共通理解を深め、基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	◆日常の生活指導の状況や課題について学年部をはじめ、教職員全体で共通認識が持てるよう、連絡・発信、相談を徹底する。	15	B	B	B		・服装、頭髪、遅刻、交通安全指導を年間を通して実施した。遅刻指導については同じ生徒の遅刻が重なり、生活習慣の改善のためには家庭との連携がより必要であると感じた。
			16	C				・服装および頭髪については、日常的に全教職員で取り組むような体制が求められる。交通安全指導については昨年よりも地域からの相談件数は減少傾向にはあるものの、本校生徒が関わる事故等も発生しているため、引き続き注意喚起を要する。
特別活動等	◇生徒会を中心にリーダーを育成し、生徒の自主性を育む。	◆生徒会が学校生活のさまざまな面でリーダー性を発揮できるように、生徒指導部を中心に適切な指導を行う。	17	B	B	B		・学園祭について、新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、文化祭についてはコロナ禍前の形態で実施することができた。体育祭については種目を多少変更しながらも3年ぶりに全校生徒で取り組むことができた。
			18	B				・生徒会を中心として文化委員や体育委員の自主的・主体的な活動により円滑に準備・運営をおこなうことができた。
◇部活動と学習を両立させ、部活動や野外活動等で学ぶ集団行動や規範意識を生涯にわたる基礎とする。	◆部活動加入率の向上と活動内容のさらなる充実による学校全体の活性化を図る。	◆野外活動や研修旅行の教育的意義を十分に理解させ、集団行動のなかで社会性を養う。	19	C	B	B		・部活動加入率は全校で72%と前年度よりも低下しものの、高い水準を保つことができています。課題としてきた女子運動部加入率も36%と引き続き増加傾向にある。今後は部活動離れがすすむなかでも高い水準の入部率を保ち、充
			20	B				

							<p>実した部活動ができることを目指したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外活動や研修旅行では各学年の生徒の様子や活動目標に応じた行程および活動内容を計画 ・準備し、充実した活動を実施することができた。
進路指導	◇生涯を見通した進路選択のための適切な指導と援助を行う。	◆普通科新コースの3年間の進路指導計画を策定し、適切な時期に的確な資料・情報を提供する。また、個に応じた指導を重視する。	21	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・1年生普通科教科担当者会議を通して資料・情報を提供し、長期休業中補習の計画、模擬試験等の受け方を検討した。
	◇希望進路実現のために必要な学力の充実と向上を図る指導と援助を行う。	◆就職希望者のために説明会やガイダンス等を実施し生徒の希望の進路を実現させる。	22	B		B	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者に対して保護者説明会を実施し、協力を得た。公務員の面接対策を充実させる必要がある。 ・補習に関して計画的に実施したが、必修補習に対して欠席者が多く効果的な運営には至らなかった。新課程入試に関して情報収集・発信し、対策をたてる必要がある。
		◆生徒の実態に即した進学補習計画（平日補習・長期休業中補習）を効率的に運用するとともに、模擬試験や実力テストを積極的に受験させ活用し、大学入試等に対応できるようにする。	23	B		B	
人権教育	◇教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切にしたい教育を推進する。	◆日常の教育活動全般をとおして人権問題を自らの生き方の問題として捉えさせる。また、人権学習の講演や映画鑑賞を通じて自己と他者（社会）との関わりを考えさせる。特に、いじめや差別を許さない生徒の育成に努める。	24	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート実施と事後指導を学年部と協同しておこなえた。また、いじめアンケートに限らず日頃から生徒が困った状況を教職員に相談しやすい環境を構築できていると感じる。 ・人権学習講演会および人権映画鑑賞等を通して人権意識の向上を図れた。今後はSNSなどのインターネットがより身近になるなど、新たな生活様式のなかでの知識・実践力の向上にむけた学びを充実させる必要性を感じる。
健康・安全教育	◇健康・安全についての意識を高め、自律的な生活習慣を確立させる。	◆健康診断の結果を基本的な生活習慣の確立への指導につなげるとともに個々の健康相談の充実を図る。	25	B		B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断は、今年度も感染症対策に努めながらの実施となったが、学校医と連携を取りながら終えることができた。また、適宜、行事に合わせて健康相談も実施することができた。 ・生徒の抱える背景はより多様化・複雑化しているため、来室生徒への丁寧な対応は今後も継続して行う必要がある。 ・ゴミの分別の新たな取組としてプルタブ回収を実施した。
		◆保健委員会活動を通して、生徒自らが健康、美化活動などに取り組むよう指導する。	26	B			
	◇教育相談を充実させる。	◆配慮や支援の必要な生徒の将来の自立を見据え、教育支援会議を通じた情報共有を促進し、個に応じた取組を校内で組織的に行う。	27	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の情報共有・共通理解に努めたが、今後も継続して行う必要がある。具体的で有効な手立てを行えるよう一層の努力が必要であると同時に、家庭・保護者の理解・協力を得るた

	◇校内の環境美化を推進する。	◆日常の清掃活動の徹底とともに、重点的な大掃除や美化週間などの取組を通して生徒の校内美化への意識付けを図る。	28	B	B	めに、どのように家庭と連携していくかが、今後も大きな課題である。 ・学校公開に合わせて大掃除や美化週間を設定し、校内の美化に努めた。 ・美化週間の点検結果を保健委員がタブレット端末で集計し、清掃状況を分析して保健だよりに掲載した。 ・3棟トイレの乾式清掃に向けて準備した。 ・ゴミの分別については今後も徹底した指導を継続すべきである。
読書指導	◇教育活動に役立つ資料を収集し、豊かな心を育む読書活動を推進する。	◆国語科と連携をしながら新入生のオリエンテーションを実施し、生徒の自主的な図書館利用の促進と読書習慣の形成を図る。 ◆図書館を利用した教科の学習や探究活動、その他特別活動の取り組みを支援する。	29	B	B	・新入生を対象に、図書館オリエンテーションを行い、利用の促進と読書習慣の定着を図った。 ・府立図書館やオープンアクセス資料を積極的に活用し、探究活動への支援を行った。図書館のwifi導入により、授業等活用の幅が広がった。 ・読書週間の取り組みを通し、図書館への来館を促した。希望クラスへ学級文庫の貸出を行い読書習慣を啓発した。
	◇生徒の自主活動としての図書委員会活動を援助する。	◆図書委員会の活動を活性化し、読書を啓発するための行事を実施する。	30	B	B	
渉外・広報・事報・事務	◇広報活動を充実し、学校情報を迅速に提供する。	◆リニューアルしたウェブサイトを一層見やすく、内容をより充実させるとともに、広く本校の教育活動への関心を高め、理解を促す。	32	A	A	・ウェブサイトと新しく導入したSNSを更新することにより、学校情報を適時提供することができた。 ・学校公開や説明会等を通して、本校の教育方針等を中学生や関係者に十分に広報することができた。特に中学校への出前授業や説明会については希望校の増加に繋がった。 ・保護者や学校運営協議会からの意見に真摯に耳を傾け、学校生活を送る上での生徒の福利厚生として、学校行事に合わせたコンビニ営業の調整、3棟トイレの洋式化等、施設の整備を行った。
	◇積極的な生徒募集、本校への志願者の増加の取組を実施する。	◆学校公開・説明会、部活動見学、公立学校合同説明会などを通じて、また直接中学校へ出向き、中学生・保護者に本校の学校経営の重点や普通科新コースの情報を伝え、より一層の桂の教育を発展させる。	33	A	A	
	◇外部評価を積極的に取り入れ、学校改善に生かす。	◆保護者・PTA・学校運営協議会との連携を深めるとともに、中学生が本校に期待し、求めるものを十分に把握し、外部評価に対し改善すべきものは迅速に対応する。	34	B	B	
	◇学校施設の改修及び多面的な学習環境の整備を行っていく。	◆本校教育活動の円滑な推進及び生徒の安心・安全を第一に学校施設の改善と効率的な活用を考え、整備していく。	35	B	B	
研究・開発	◇農業・環境のスペシャリスト育成を目指し研究開発に取り組む。	◆TAFS (Training in Agriculture for Future Specialists) プログラムを深化させ、地域や社会の健全で持続的な発展を担うスペシャリストを育成する教育課程の研究開発に取り組む。	36	B	B	・活動の制限が緩和されたこともあり、例年通りの連携事業などもほとんどが再開されただけでなく、新規の取組も増加し、地域への貢献度も大きなものになっている。 ・昨年度導入された新規の施設設備を活用し、どの部門も生産性を向上させ、充実した実習・研究活動を行うことができた。各種大会や表彰
	◇専門科目の授業、教科指導の充実・発展に取り組む。	◆新しい施設・設備を有効に活用し、TAFSや専門学科の教科指導、フィールド科学実習、農業クラブ活動の中で主体的・対話的で深い学びを通して専門性を高め、	37	B	B	

	地域社会と協働的に取り組む態度を養い、社会で活躍できる生徒の育成に努める。 ◆専門学科の将来構想の方向性と観点別評価やICTの活用などの先進的な実践を通して、新しい時代に合わせた専門学科の在り方を検討する。	38	B	B	においてもその成果を発揮することができた。 ・全体的には、まだ先進的な授業や取組を満足にできているとは言えないことや、学科ごとの目標や在り方を検討することなど、課題が残る。
--	--	----	---	---	---

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> 桂高校は地域に根ざした高校であるので、今後も地域とのつながりを深めて欲しい。 近年、桂高校はレベルが上がっている。全体をどう伸ばしていくかが課題である。 家庭学習の不足が課題となっているが、教員が生徒のやる気をどう引き出すかが大切である。 研究・探究することは大切である。与えられたことしかできないことと、与えられなくてもできることの差は大きい。 普通科の新コースは、今後も中学生に理解してもらい、教職員全体で進めて欲しい。 ICT の利活用では準備に教員の負担が大きいと聞くが、共同編集、画面共有、課題提出等、学校ならではの活用法があり、さらに有効に活用して欲しい。 コロナ禍の中で、文化祭、体育祭をなんとか実施できたことは良かった。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 「府立高校の在り方ビジョン」の理念を基本に、本校の特色である自主自律の精神のもと、「桂プライド」を持ち、自ら学び、自ら考え、積極的に活動し、健康で豊かな人格と正しい人権感覚を備えた生徒の育成。 年次進行の新指導要領の着実な実施とともに、新しい時代に応じた全教科及び総合的な探究の時間における探究的な学びの実践。 普通科におけるコース改編による着実な成果と、専門学科における農場圃場・実習棟の環境整備を生かした研究と教育内容の充実。 1人1台端末等ICT機器の利活用の充実と全教職員の意識改革とスキルの向上。 在校生保護者への積極的な情報発信の継続と、ポストコロナ禍において保護者が本校の教育活動の理解を深める活動。 学校の特色と魅力を、中学生とその保護者、地域住民にさらに理解してもらうための情報発信の充実と、小中学校を含めた地域連携の充実。
---------------	--